

背景・目的

本研究は、「外国語絵本の読み聞かせ」を児童教育学科などの一般教育英語科目の学習活動に取り入れることによって、「語り」を通じて意味内容の伴う英語学習を行うことの効果を検証するものである。特に本年度は発音・イントネーションの習得と非言語コミュニケーションスキルの育成を目指した。また、小グループでの学び合いを重視し、自らとお互いの振り返りから学ぶ体験を実現する事を目標とした。

実施内容（授業回数 5 回）

授業の進行は次の 8 段階のステップを踏んだ。

- (1) Joanne Sato 先生の読聞かせ授業を体験する。
- (2) 4 人グループで好みの絵本を選ぶ。
- (3) 絵本の内容を理解する。
- (4) 音読練習を行う。Joanne 先生の模範朗読録音を使い、シャドーイング練習などにより流暢さを鍛える。声のトーン・間などを工夫する。
- (5) 音読を録音し、個人・グループで振り返る。
- (6) 読み聞かせをパブリック・パフォーマンスととらえ、表情・視線などの工夫を検討する。
- (7) 読み聞かせを録画し、個人・グループで振り返り、改善点を検証する。
- (8) 他のグループに向向いて読み聞かせを行ない、フィードバックを受ける。他のグループの人の読み聞かせを聞き、フィードバックする。



図 1 (7)の録画を見て振り返る様子



図 2 (8)の他のグループに向向いて読み聞かせる様子

結果及び考察

学生たちは読み聞かせ活動に積極的に参加し、聞き手を意識したパフォーマンスを目指した。単なる棒読みにならず、表現を工夫し、目線や適切な「間」を意識し、時には聞き手に問いかけ、身体表現(ジェスチャーなど)を交える事でより深く内容を伝えようとした。学生の振り返りの主なものを列挙する。

- (1) 物語・場面・登場人物を理解することが肝要。
 - (2) グループで相談して表現方法に様々な工夫をする過程が有意義であり楽しめた。
 - (3) イントネーション・プロソディ・表情・ジェスチャーなど、言葉そのものを越えた要素がコミュニケーションを支えることが理解できた。
 - (4) 録音や録画から聴衆の立場から自分を見ることで客観視でき改善点を探せた。
 - (5) 繰り返しが記憶に役立ち自信に繋がった。
 - (6) 仲間の助言を聞き次回に生かす取り組みは意義深く、助言しあうことに抵抗はなかった。
 - (7) 恥ずかしいと思っていると内容も気持ちも伝わらない。感情移入できると自分も楽しい。
- 次年度は、より fluency(流暢さ)と spontaneity(自然さ)を育てるために、ドラマを用いた外国語指導法や様々なシャドーイング練習法から学び、学習活動に更なる工夫を加えたい。